



## 平成6年度 明るく、有意義なゾントライフに！

1993-1994年度  
会長 西麗子

平成6年3月10日、佐々木会長を初めとするSOMクラブの暖かいご支援ご指導と会員の努力のおかげで認証書を盛会裡に執り行う事ができました。今年度は、クラブバイローズの制定を始め方針や特色の決まる大切な年です。皆様のご理解ご協力をお願い致します。今年度の基本方針として、以下の4項目を考えています。

第一に各種委員会の活性化を図り会員の意見を会の施策に反映させていきたいと考えます。そのために、委員長は委員会開催日を例会に公表し、関連のある委員会には委員でなくとも参加し意見を述べ、委員会同士の交流を図りましょう。すでに各委員長様より今年度の立派な事業計画案を出していただいております、それを基に計画をたてました。

第二に会員間の親睦を図りましょう。そのためにゾント内では、『・・・さん』づけ呼称の奨励、例会時の席次の非固定化を図り、各専門分野の話を聞いたり、移動例会、クリスマス会、小旅行、ゴルフコンペ、ハイキング等を開催し、楽しく有意義なクラブにしたいとおもっています。また SOMクラブである大阪Iゾンタクラブとの関係を強化し合同新年会、合同講演会も計画するとともに大阪Iゾンタク

ラブ30周年事業が成功するよう微力ながら協力したいとの所存でございます。

第三に国際ゾンタクラブの目的の達成に鋭意努力していきましょう。地域(国内)の平和及び発展のためには、被災地への援助活動、環境問題に取り組み、認証式の時に寄付をしたハクモクレンの植樹を継続していきたいと考えています。国際平和及び発展のためには、フォスターペアレント(里子、里親制度)、ホームステイの世話、ネパールでの目の治療、手術の援助を計画しています。女性の経済的、社会的地位の向上を図るため、講演会の開催、ドーンセンター見学会(11月下旬予定)、アメリアイヤハートの研究発表を予定しています。

第四に活動資金作成活動として、イベントを11月27日(日)12時~15時(昼食付)ロイヤルホテル山楽の間で開催するべく企画しています。

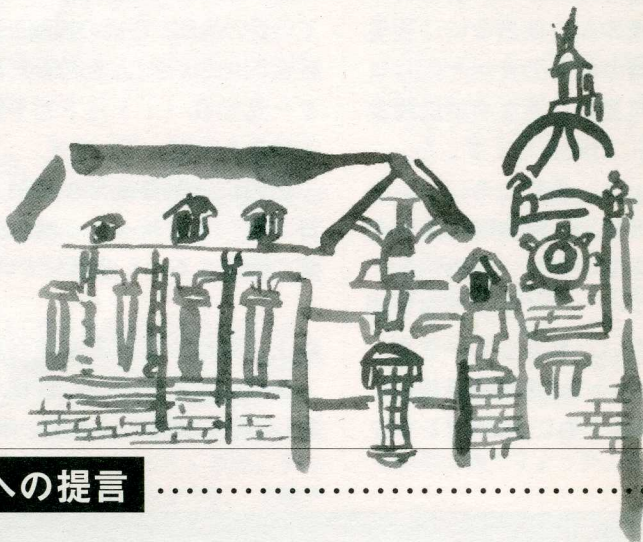
以上、平成6年度の事業計画案です。本年も、有意義なゾントライフとなるべく皆様と手をとりあって前進して行きましょう。よろしく願い申し上げます。



お天気に恵まれ、花々がいっせいに咲きそろった美しい五月の盛岡を訪れた。高層ビルがないためか、街の至るところから、なだらかな雪をかぶった岩手山が見渡せる。

西会長、辻副会長と共に、まず会長会議に出席。翌日の会議に先がけ、エリア1の活動について意見が交された。エリアディレクターに参加するクラブの負担が大きいため補助金を強化する件など、又、根本的な問題としては、エリアディレクターの仕事の範囲の設定やエリアごとに合ったマニュアルの必要性の声が大きかった。事業計画、収支決算、予算案についても、各クラブの持ち回りでは、組織の拡大に伴い対応できなくなってきたのが現状。各クラブに委員があるよう、エリアにも会計、監査役などを設け、組織化と、誰でも対応できるマニュアル作りが今後の課題となるだろう。

ビジネスセッションでは、各クラブより317名の参加があり、事業活動報告の後、活発な意見交換がなされた。決議された内容は①エリア組織化のための事務局設置を審議する準備委員会を設置する、②エリアミーティング開催地への補助金は40万円とする、③次期地区大会（名古屋）の収支予算案の承認、④世界大会のお土産3000\$とする、⑤ガバナー費を一人3000円の負担とする、⑥地区大会を今後4年毎に日本が引き受けること、以上である。又、地区次期役員選挙の報告があり、次期ガバナー板東道子姉（徳島）、エリアディレクター原菊子姉（横浜）、指名委員長 広瀬初恵姉（横浜）、



盛岡を代表する建物、旧盛岡銀行本店

地区会計は引き続き台湾の Jaime Tang 姉、地区セクレタリー関紀美子姉（東京II）に決まった。又、地区アワードは、神戸ゾンタクラブの北村春江姉、仙台ゾンタクラブの長池博子姉が受賞された。

午後は、「ゾンタクラブとユニフェム—国連による女性開発支援のために—」のテーマのもと、野瀬久美子氏（実践女子大学講師、ユニフェム国内委員会副会長）の基調講演とパネルディスカッションが行われた。国連のNGOのカテゴリー1の中に国際ゾンタクラブの位置がある。ユニフェムは、女性に関することが主である。単に受益者としてでなく、参加者として企画推進できる開発計画、困窮する女性の自助努力を高めることが主要な任務である。長期的にユニフェム活動に協力してこられた名古屋、秋田クラブの方々のお話、又、現地の人達が本当に何を求めているかを十分知らないと援助にならないとの渋谷姉のお話は、これからゾンタ活動をしていく我々に、基本的な姿勢を教えられ、参考になった。

ゾンタの何たるかも余り良く解からず参加した私にとって、今日のエリアミーティングは、地区とは何か、エリアとは何か、ゾンタの現状は、これからの課題は、と言ったことを、改めて知り、考えるきっかけになった。いい勉強の機会であったと思う。残念ながら我々は交流会に出席できなかったけれど、議論のあとに各地の方々と一緒に親しく交流できるのもゾンタの良さなのだと思う。

エリアミーティングへの提言

西 麗子

新緑が目眩しい盛岡で開催された1993年度のエリアミーティング及び会長会議に出席し、全国のゾンシャンと話し合う機会をもち、楽しい一時でした。但し会議の運営にたいしては希望があり、以下の点を改善していただけたらと思い、筆を取りました。

1. 討議事項は、まえもって各クラブへ通知していただきたいと思ひます。そうすれば各クラブで充分討議ができ、皆の意見が反映されます。
2. エリアの執行部は、事前に会合を持ち、執行部間で意見の調整をなさるべきでしょう。

執行部で意見が分かれているようでは、議事運営が紛糾いたします。またある程度の案を考えてきていただいて、それをたたき台として話を進めるのが効率的ではないでしょうか。

以上です。ゾンタを開かれた組織にするために、討議内容は1~2ヵ月前に各クラブに知らされ、各クラブで十分に討議されることが必要だと考えます。質問も各クラブで調整されたものが出る位になれば、全国大会は充実したものに変わると考えます。ゾンタの組織化、民主化及び発展を心から願うものです。



芸術家が自己の芸術を築き上げるのに二通りの道がある。その一つは古典に学び、その基本をはずさず、そこにどれだけの構成と内容を盛り込むかの“挑戦”によって、時代を超越した普遍的に新しい芸術を提示し続けるという大変困難な道。もう一つは、常に時代を意識し、過去に無かった新たな世界を創り続ける、いわばセンセーショナルであり続けるという辛い道である。

前者は気を緩めると古典に安住してしまうという落とし穴が待っている。後者には、アイデア倒れの表層的芸術に終ったり、ジャーナリズムに翻弄されて自己を見失うこわさが隠れている。

1989年11月、クルト・マズア指揮、ライブチヒ・ゲバントハウスのベートーベンチクルスを聴いた時、今だにこういう音楽が健在であったかと背筋が震えたのを思い出す。基本を踏まえた大いなる構成。その中に、感情が音の髪となって確実に豊かに刻み込まれ、あふれ出す。古典がこんなに新しく感じられたことが久しく無かった。騒がしい西側の国で前者の位置を保ち続けるには、よほど卓抜した音楽性と強い意志が要る。マズア氏が彼の稀有な音楽をじっくり築き得たのは、東ドイツに居たことが幸いしているのかもしれない...などと考えながら彼の音楽に酔った。

この手のコンサートの常で、私はおよそ一年も前にこの日の切符を手にしていた。時まさに世界は激動の直前に在ったのを知らず...。何と！一年後の11月9日には東西ドイツを隔てるベルリンの壁に風穴が開いた。

マズア氏が単なる音楽家の範疇に収まらず、この度の統一の立役者の一人として活動していると聞いていたから、“今や、彼は国を出られないのではないだろうか”と、にわかに不安になった。ベートーベンチクルスは11月23日から7日間続く。大枚はたいて通し券を買っている友人は「えらいこっちゃ」とわめいている。コンサート当日、シンフォニーホールの舞台にマズア氏がその大柄の姿を現わした時、皆は万感の想いを込めて拍手を送り続け、まるでフィナーレのごときオープニングであった。

あれから五年、この(1994年)6月24日、大阪ゾンタクラブ主催で、マズア氏夫人偕子氏の講演があると聞き、大学の授業をやったのことで抜け出し会場へ走ったが、夫人のお話がおおかた終ろうとしているところだった。その時私は夫人の前に、思いもかけないマズア氏の姿を発見。恐ろしいほどの緊張と解き放たれるような自然感とを必然性をもって共存させることのできるあの人が、眼の前に居る！音楽のミューズが音楽家の頭上に手をかざしているアングルの絵を思いだしていただきたい。

その夜のシンフォニーホールのコンサートは、マズア指揮、ニューヨークフィル。曲目はモーツアルト「リンツ」とブルックナーの「交響曲第4番」。都合で申し込みが一月前になってしまった為、24,000円の席しか残ってはず、貧乏絵かきには身分不相応と泣く泣くあきらめたものである。つい眼と鼻の先に、あきらめたはずのあのマズア氏のでっか

い顔があり、私はもうホールの中で彼の音楽の雨に打たれているかのように胸をたか鳴らしていた。隣でお金の計算に忙しかった辻さんを、あきれさせていたことであろう。毎日新聞の音楽評(7月1日夕刊)を、コンサートを聴いていない者に評することはできないが、誤解を生じるようなタイトルの付け方には不満が残る。

さて、偕子夫人の講演の日の夜、BS放送でマズア氏の音楽が流れたのに気付いた方が居られたらどうか。

11時頃だったか、コンサートのパンフの隅にいただいた、マズア氏のサインを額に入れながら、テレビのBS放送から流れる音楽を聞いてはと顔を上げた。番組と番組の間の短い帯の音楽番組はすぐに終り、ドイツ風景の静止画面の右下端に音も無く、クルトマズア指揮、ライブチヒゲバント...と文字が出た。「ワオッ！」と思わず万歳する私。興奮の一日は、締めくくりまで、クルトマズア氏だった。



寄贈  
ハフモクレン 5本  
大阪II ZONTAクラブ  
平成6年3月

1994年3月、  
大阪IIゾンタクラブ設立記念に  
白木蓮を5本大阪市に寄贈。  
大阪城公園に植樹。  
毎年つづきたいものです。

平成6年3月10日は、大阪IIゾンタクラブの誕生日です。その日、私達大阪IIゾンタクラブは日本で30番目のクラブとして、認証されました。認証式にむけての約6カ月の準備期間は、慣れない者ばかりの悲しさで試行錯誤の連続でしたが、それでもメンバー全員が力を合わせて頑張ったかいあって予想以上の盛会のうちに終えることができました。地区ガバナーでいらしたリー様はじめ全国から多数のゾンシャンをお迎えし、又御来賓として大阪府中川知事様以下関西の錚々たる皆様においでいただき、私達は本当に幸運なスタートをきることができました。心から感謝しております。

3月10日午後3時受付開始。遠方からのゾンシャンがぼつぼつ到着され、ネームカードをお渡ししたのち売店コーナーでショッピング等を楽しまれました。この売店には大阪IIゾンタクラブメンバーの手によるテレホンカード、ハンカチ、クッキーや名刺入れ、ゾンタロゴ入りペンダントやイヤリングなど苦心の品が並べられました。



4時迄に中川知事、西尾大阪市長、宇野関経連会長、大西大阪商工会議所会頭、中塚大阪ロータリークラブ会長など御来賓の皆様が続々御到着になり定刻通り認証式が始まりました。まず司会役の辻副会長の開会宣言に続いて全員起立してゾンタソング斉唱。続いて西会長が来賓の方々を御紹介します。壇上のゾンタ関係御来賓と一般御来賓に敬意と感謝の意を表わしたあと、リーガバナーから認証状を手渡されました。認証状を受け取る西会長の表情も喜びと将来への決意に満ちてこの式典のハイライトを迎えます。続いて29名の会員が前列に進み出て司会者より名前と職業を順に紹介され壇上の方々とも全国ゾンシャンに御挨拶の一礼をします。またリーガバナーのリードによりゾンシャンとしての誓いの言葉を全員で唱和します。この部分は何度かリハーサルをしましたものの、なかなか声が揃わず、当日までハラハラする始末でしたが本番ではミスもなくホッとしました。ゾンタの理想と設立理念をリーガバナーよりお聞きし、良きゾンシャンとならなくてはと、めいめいが心に誓いました。そのあとは吉田エリアディレクター、佐々木SOMクラブ会長、中川大阪府知事、西尾大阪市長の順に心暖まる御祝辞とお励ましの言葉を頂き感激のうちに第一部の認証式は終了しました。

記念写真と休憩の1時間をはさみ午後6時から祝賀晩餐会の始まりです。第一部の厳粛な雰囲気とは違って変わり、祝賀会はテーブルを囲みお食事を頂きながら全国のゾン



シャンと親睦を深めるときです。大阪IIゾンタクラブ重森由郷様と当クラブ重森三果会員による祝舞「萬歳」、当クラブ山本景子会員によるピアノ演奏「水のたわむれ」を鑑賞した後、関経連会長宇野収様、大阪21世紀協会加藤良雄様の心のこもった御祝辞を頂戴しました。大西大商会頭の音頭により御出席300人の乾杯の唱和が響きます。お食事に入るとテーブルごとに楽しい歓談の輪ができ、初対面の方とも旧知のよううちとけてしまいます。途中で全国30クラブの出席者の御紹介もあり、名刺を交換したり、遠くの友人との久しぶりの再会を喜んだり、賑やかな祝宴となりました。圧巻はSOMクラブである大阪IIゾンタの有志の皆様によりくりひろげられた韓国舞踊。昨年11月のソウル地区大会の折頂いた色とりどりのチマチョゴリを身にまとい、重森姉の指導のもと特訓に特訓を重ねた(?)成果を披露して下さいました。会場からの大きな拍手を受け、またリーガバナー夫妻からのお誉めの言葉もあり、お祝い気分は最高に盛り上がります。最後に西会長のお礼の言葉と、徳光副会長の閉会の言葉と続き記念すべきチャーターナイトの幕は下ろされました。



翌11日は宝塚歌劇の観劇。朝3台のバスに分乗して宝塚に向け出発。抜けるような青空のもと各バスのガイド嬢(実は当クラブのメンバー)の名ガイドによりあっという間に劇場に到着。タカラヅカの甘く悲しい恋物語に涙したり豪華絢爛な衣装にうっとりしたりしているうちに時間は過ぎ皆様夢見ごこちで帰路につかれました。

全国ゾンシャンの友情とお励ましで無事に認証式を終え、大きな行事を終えた安堵と満足感でメンバー一同胸のあつくなる思いでした。この結束を今後のクラブ運営に生かして活力ある仲の良いクラブとして成長してゆきたいと思いました。

去る3月10日、11日のチャーターナイト、エクスカージョンに参加しての感想を会員に聞きました。アンケートの回答者は8月1日現在で29名中11名と少ないですが、お寄せいただいた感想等について紙幅の都合上、その要約をここに掲げることいたします。

- 感想
- ※できれば当日の運営上必要な書類（座席表等）は、全員にお渡し頂いたほうが、全体の流れが分かり、参会者からいろいろ聞かれたときに、答えられたのではないかと思います。
  - ※準備時、連絡方法がはっきりしなくて、どうしたらよいかわからないことが多かった。
  - ※チャーターナイトの準備の手伝い・当日の手伝いでメンバー同士が近くなり、親しくなれたので、とても嬉しかったが、仕事の分担が片寄りすぎていたのか、最初のイベントで様子がわからなくて、忙しすぎるメンバー（役員の方）がお気の毒に思った。
  - ※若い方はパワーがあると敬服した。大変よかったと思う。
  - ※金額の高低に対する意識が違いすぎて驚いてしまう。上層部は小さな額でもおろそかにしないこと。
  - ※予算計画を（予備をとって）しっかりしておけばもっとよかったと思う。ロイヤルホテルの支払い、寄付などで最終的

- に潤ったのだが、皆とても心配したのではないだろうか。
- ※何分はじめての事が多く、暗中模索の状態だったが皆が力を合わせて協力すればこれだけの大きなイベントができるんだというのは大きな収穫だ。しかしこれも佐々木会長をはじめとするSOMクラブのご指導の賜物。感謝。
- ※メンバー達的意思（意見）が実行委員に伝わっていない。風通し悪い。
- ※無事に認証式を終えることができ、ほっとしている。クラブ員全員が大なり小なり何らかの形で準備運営等に参画できたことは大変よかったと思う。ただ、大勢が効率良く動くために、誰か一人、その人に聞けばすべての事が分かるようなキーパーソンを確保しておけばより良かったのではないかも思った。

## 花の道明寺

..... 宮本 典子

4月13日の水曜日、大阪IIゾンタクラブ初めての懇親会として大阪府下一番の名刹道明寺さんをお訪ねしました。スケジュールが急でしたので都合がつかなかった方も多かったようでしたがとても楽しい会でしたので、ここにご報告します。

当日は前夜から朝方まで雨降りの鬱陶しい天気で折角のお花見も残念と思っていましたら昼頃にはすっきりと晴れて美しい青空となりました。精進のいいのがもろにできましたね！

と田中さん。皆チャーターナイト翌日の宝塚観劇の日うってかわって晴れ上がったことを思い出しました。私達ついているね、と。

道明寺さんはあいにくご本堂は修理中で、国宝のご本尊は次の機会にとりましたが八重桜が満開で、また花梨のおおきな木には愛らしいピンクいろの蕾に白い花がちらほら咲き始めていました。花梨の花を初めてみた人も多くいました。六条先生の柔和なお顔に迎えられて通していただいたお座敷、そして手入れの行き届いたお庭の素晴らしさは格別でした。



当日は大阪Iの方や外国からのお客様もいらして賑やかでした。道明寺さんで休業中の若い女性たちのお行儀のよいきびきびしたお給仕で運ばれてきたお料理の素晴らしさは忘れられません。とろりとしたえもいわれぬお味のごまどうふ、これも前の晩から胡麻を水につけ朝からすって練り上げたという手造りのものでした。私など作り方まで教えていただきました。またがんどきは本当に鴨ではないの？というように

すてきなお味でした。それに季節のもののかずかず、たとえば立派な荀はたっぷり山椒に飾られてすすめて下さるといぐあいでした。デザートは桜餅—そういえばこれは道明寺、ここが発祥の地、ほんものをいただきました。そんなわけでみんなとても満足して春の一日を楽しく過ごして帰ってきました。お忙しい中この会をアレンジして

下さった西会長と大阪I六条先生に厚く御礼申し上げます。



1994年3月10日(木)に認証されたNEWクラブとして、1994年7月16日～21日迄、DETROIT WESTIN HOTELで開催された「第52回国際ゾンタコンベンション」に不安と期待を持って西会長始め4人で参加致しました。現地時間7月16日(木)正午より登録をすませ、沢山の書類を受け取り、ケントルムに、宿題である私達の認証式の写



大阪IIゾンタクラブ出席者  
西会長  
辻副会長  
安井  
丸山



真を、西会長と展示に行きました。他クラブのは、規定通りでなく、私達のクラブのが一番すっきり致しておりました。

オリエンテーションに始まり、オープンフォーラムで、SONJA RENFER会長の挨拶がありました。「1992年の香港会議で会長に就任して以来、皆さんのお蔭でこの2年間、国際奉仕に関する運営、財政、国際協調主義と関係ある専門的な役割をなし得た事、又、この重要な組織を維持し、このような大会の会長の役を与えられた事に、感謝しています」と、述べられました。1992年香港で採択された長期計画に基づき、継続的なプログラムの施行、パイロース改正案、会費値上げに関しての理由説明、会員数の伸び、本部の業績等が、発表されました。

17日(日)、18日(月)と全体会議が続き、会費の値上げに関して、値上げの理由説明がありましたが、反対意見の発言が非常に活発になされました。ブラジルのコーヒーが

値上げして飲むのをさけた人が有るのと同じく、会費が値上がりすると退会する人が増えるので決められた予算で、いかに運営すべきか、考えるべきだと云う意見が出ていました。職業分類委員長から、メンバー増加率昨年比30%ダウン、入会7000人退会6000人で会員が1000人増えても、6000人減った理由を考えるべきで、プログラムの工夫、又、会員相互の友情を深めるべきだと発言がありました。

19日(火)朝7:00より役員選挙があり、この間に13課題について各々分かれワークショップが盛大に行われました。午後より全体会議がありUNIFEM理事のMARJORIE THORDEさんの話、次いでAMELIA EARHART委員長よりルーマニアのブカレストの工業大学で学ぶJOANA CARTIONさんの紹介がありました。彼女は航空宇宙の研究や、ゾンタ基金について雄弁にスピーチしました。又、現在彼女はゾンタ会員になっています。続いて選挙結果発表(1994～96国際役員、理事、指名委員、投票者数1324名)がありました。92～94会長のSONJA RENFERさんから、94～96会長ナイジェリアのFOLAKE SOLANKEさんに『友情の橋を架ける』バトンが渡されました。SOLANKE会長のメッセージは、

「この二年間の未来像と計画を皆さんと共有できることを、とても名誉に思います。確かに私達は、《世界に奉仕する成功した経営者》であります。しかし、92年7月の就任後、私達はこの二年の間に、問題点と方向性について、次のような主題の必要性を感じました。それは、(1)女性の健康(WOMAN'S HEALTH) (2)人権(HUMAN RIGHTS) (3)世界の協調(WORLD HARMONY)であり、今後二年間を通じ、まず、『3H』の実行に参加して下さい」と云う事でした。20日(水)、21日(木)と全体会議が続き、

(1)パイロース改正案について  
パイロース第二条目的[女性の健康は人類の存続にかかわる]により、女性の健康を特に取り上げ、その他16項目について討議

(2)会費の値上げについて  
・1995年9月1日より14\$の値上げが実施される  
・1995年までオペレーションを続ける予算が必要で討議の

結果、特別の一回分担金（5 \$）として、1994年9月1日に実施される。

以上、2項目の事が決定しました。

調和と世界平和、即ち初めにクラブ内の調和を図り、世界平和を進める事を確認して会議は終わりました。この6日間の会議を通して、他の国の人々が活発に発言したのに比べ、奉仕、資金寄付等では日本が多く表彰されていたにもかかわらず、日本人のゾンタ会員の発言がなく、非常に淋しい思いを致しました。これから国際会議で堂々と意見を述べられる人を育

てて行きたいと思います。今回、私達はゾンタの事を、あまり理解しないで出席しましたが、手初めに、皆で勉強して日本の中で、自分たちのクラブの意見をはっきり発言できるようにになりたいと思います。

私の愚言ですが、非常に精神的、肉体的にも、疲れました。語学が出来ない事が最大のストレスでしたが、時間と沢山の費用を費やした会議の6日間は長く、退屈で、もっと要領良く短期間で終り、楽しい計画が欲しいと思いました。

## カナダツアーに参加して ..... 辻 康子

コンベンションが終了した翌日の7月22日より、4泊5日のカナダツアーに参加した。

ドイツ、イタリア、インドネシア、タイなど9ヶ国のゾンシャン32名からなる国際色豊かなグループで、デトロイトからバスで約6時間、国境を越えカナダ経済の中心地トロントに到着した。経済の中心地というわりには、こじんまりとしていて、19世紀半ばに英国より独立した面影が至るところに色濃く残る街である。カナダでの第一夜は、このツアーの目玉の一つ“オペラ座の怪人”観劇の興奮で包まれた。半端でない舞台仕掛けで俳優層の厚い本場ミュージカルを、素適に着飾った観客の中に混って見るのは正に夢の世界。一寸贅沢な感動であった。

ツアー3日目、トロントから再びバスに揺られナイアガラへと向った。アメリカ滝カナダ滝を、船に乗って、正面から、タワーに登って上から、エレベータで下って滝の裏側から…もう滝は知り尽くしたという程、滝を眺めて2日間を過ごした。しかし、あまりにも有名なこの滝を見た時、初めて見たような気がせず、さほど感激がなかったのは残念であった。

大阪IIZ.C.オリジナルのマーク入りペンダント、イヤリングは、他の国々のゾンシャンにも好評で、度々話題に登った。次回世界大会に持参するからと約束をして、再会を楽しみにしながら各々の国へと別れた。

## ワシントンレポート ..... 宮本 典子

7月はじめ私用でワシントンを訪れる機会がありましたので、ゾンタクラブの本場アメリカの首都のクラブの特に奉仕委員会の活動についてうかがってきました。

ワシントンゾンタクラブは100人の会員を持つ大きなクラブで、前会長（6月に交代）ビクトリア・バレラーホワイトさんは海軍省でヘリコプターの購入などを担当し、ペンタゴンにお勤めです。例会は毎月第一水曜日にジジョータウン内のユニバーシティクラブで5時から7時30分まで、その後、皆で近くのレストランでディナーをとる、とのことでした。（ワミコ惜しかったわね、きてもらったらよかったといってくださいましたが、本部からの連絡は帰る前の晩、金曜日で土曜日の朝電話でお話したのがやっと、残念でした。）そのほかにもう一度第二月曜日の昼にあつま（役員会らしい）。会員の平均年齢は50歳くらいだそうです。

奉仕委員会は財務と密接に関係しながらクラブのプランの実行にあたります。A 国際的ないろいろな寄付、食料援助や奨学資金等。これはどこも同じでしょう。B ローカルなプロジェクトとしては 1) 女子学生に対する奨学資金—ワシントンにある5大学に一人ずつ一年に1500~2000ドルずつ出している。2) ハナハリソンセンター（婦人の職

業教育をサポートする、コンピューター等を教える機関）へ毎年3500ドル寄付する。3) クリスマストーキング—クリスマスに外へでられない人やひとりぼっちの人のところへいってお話をする—病院にいる子どもやおとしよりなどに対して全員で去年は2500人位に話した。4) 食事を運ぶサービス—ある機関で作っている食事を食事を作れない人のところへ運ぶ。1年5~6回土曜日の朝行っている。5) 本を集めて図書館に寄付する。土曜日の午後1日かかって本を持ち寄り箱に詰めて送る。年数回、会員の誰かのところである。（事務局はない）

これらの活動資金、クラブ財政について。古いクラブなので蓄積がある。資金作りとしてしていることは、1) 財政委員会は毎年クリスマスカードを作って売ったり自分たちも使ったりしている。2) レストランのディナー—アンドトークを企画する。3) マチネーの食事付き会を企画—たとえば劇場の切符は12ドルだがそれを20ドルで売り食事の材料は寄付でまかない10ドルにすると一人分で18ドルもうかる—などをして、等々。私たちのクラブの話もして話題はつきませんでした。

1993年度は我が大阪IIゾンタクラブが誕生した年度である。昨年度の活動は、6月5日の大阪IIゾンタクラブの設立総会に始まり、1994年3月10日、11日のチャーターナイト、エクスカーションに向けての準備活動に明け暮れたといえる。

1993年6月5日、SOMクラブである大阪Iゾンタクラブによりロイヤルホテル羽衣の間で、大阪IIゾンタクラブの設立総会が開催された。引き続き開かれた第1回オリエンテーションで、佐々木静子SOMクラブ会長から役員指名の提案があり、出席者全員の賛成を得て、執行部が選出され、26地区エリア1の30番目のクラブとしての活動がスタートした。この席上でチャーターナイト、エクスカーションの日取りは、1994年3月10日、11日と決まり、佐々木会長により式典会場のロイヤルホテルの予約もなされた。

6~7月

初めのうちはクラブの趣旨や活動の様子がわからず、ましてチャーターナイトやエクスカーションがどのようなものか見当もつかなかった。SOMクラブの会長や役員の方々より、役員や会員に対し、個別にまたは全員を対象に、数度に亘り、レクチャーやアドヴァイスを受け、少しは概要を理解できるようになった。

9月

ちょうど良い具合に、23日、京都IIIゾンタクラブのチャーターナイトが都ホテルで行われ、会員多数が参加して、チャーターナイトの様子や会の進行、会場の設営状況等をつぶさに観察することができた。そこでの見聞や感想をもとに、来賓の招待、案内状の形式、会場の設営、バザーの開催、会員がつけるコサージュ等、役員会で具体的な詳細の検討に入った。また、エクスカーションとして宝塚観劇を計画し、関西電力秘書課及びSOMクラブ倉智様を通じて、チケットの予約を行った。

10月

例会において、バザーでの販売商品、テレフォンカードの作成、チャーターナイト祝宴アトラクション等について意見交換、検討を行った。また、SOMクラブより活動資金として100万円のご寄付をちょうだいし、特別会計に繰り入れた。

11月

役員会や実行委員会を頻繁に開き、より詳細な計画の詰めを行った。具体的には、宿泊代金、写真代、観劇代の決定や、バザー商品の品種と売価の決定等を行い、あわせて、会員の任務分担原案作成、プログラム原案の検討を行った。それに加え、来賓の人選や、大阪市への認証式記念寄付についての検討にも入った。また、チャーターナイトの様子や雰囲気会員全員が分かるように、小樽チ

ャーターナイトのビデオを例会で観賞した。

12月

月の初めに各ゾンタクラブへチャーターナイトの案内状および申込書を発送した。また趣意書を持って、来賓予定者のところへ西会長が挨拶回りを行い、その際多くの方々、企業から過分のご寄付を頂戴した。とくに大阪府知事や大阪市長と西会長、辻副会長との面談では大阪府眼科医会や企業の方々に大変お世話になり、皆様方のお力添えで、式典や祝宴のご出席のお返事をいただくことができた。

1月

大阪市への記念寄付として、白木蓮を贈ることに決まった。一般来賓、ゾンタ来賓、マスコミ関係者等への招待状を手渡ししたり、郵送したりした。一般来賓への招待状を西会長が手渡しした際、多くの来賓予定者の方々から過分のご寄付をいただいた。

2月

チャーターナイトを1ヶ月後にひかえ、最終的な準備段階に入る。エクスカーションの宝塚観劇のチケットを受けとり、送迎バス会社との打ち合わせを行う。また、試食会を開き、祝宴の料理を魚のフルコースに決めたりするなど、ホテル側との打ち合わせを重ねた。

3月

月初めの例会で会員紹介部分のリハーサルを行い、祝宴の部の進行順序や参列者の接遇の心得を説明するなどして、本番に備えた。また、各部署の責任者が最終的な打ち合わせを行い、前日には会員が協力しあって、引き出物の袋詰めやバザーの箱詰めを行った。チャーターナイト当日は270名ものゾンシャンが相集い、多くの来賓の方々のご臨席を得て、盛会裡に無事終了することができた。翌日のエクスカーションも、270名もの参加を得て、宝塚をこころゆくまで楽しんでいただけたことと思う。

4~5月

チャーターナイトの後始末の活動が主で、反省会を行ったり、チャーターナイト特別会計の決算を行ったりした。振り返って見れば、今まで、300名もの人が集まる大きな大会を運営したことがない素人集団が無事に大会を開くことができたのは、会員が一致団結してことにあつたせいもあるが、何よりもSOMクラブである大阪Iゾンタクラブの皆様の全面的なご支援の賜物であり、また、会員が所属する企業や知人、家族の有形無形のお力添えの賜物でもあると思う。この1年間の活動で得た成果（ノウハウ）を今後の活動に生かすよう努力してゆきたいと思う。

編集後記

有能なスタッフ揃いのわが広報委員会。私の仕事は原稿依頼のみ。あとはおまかせ状態です。多謝。（牛田）

読み易さと、大阪IIゾンシャンの若さ（！）を表わすよう、少ない紙面と予算の中でデザインに苦心しました。（大森）

初リサイクルを今秋に行うため多忙な夏となり何のお手伝いも出来ず心苦しい後記です。（重森）

結構「ひと言」もの申すことが多いと思います。感じたことをどんどん聞かせてください。私も勉強になりますので…。（田中淑）

例会だけでは見えない、皆様の趣きの異った顔を、紙面に発見できるのが楽しみです。（中野真）

チャーターナイトの記録をまとめて、今更ながら大変なことをやり遂げられたものだと感じています。（幡山）